

第2章 知的障害教育部門 小学部の研究

第2章

あたご部門（知的障害教育部門）小学部の研究

1 研究の方法

研究一年次（平成30年度）～二年次（令和元年度）までの研究で、国語科と算数科の指導内容を単元化し、単元別指導計画表を作成することで、6年間の中で「何をどのように学ぶのか」系統立てることができた。一方、課題としては、単元別指導計画表の活用がほとんどできておらず、単元別指導計画表の有用性を検証することができなかった。また、他の教科等の単元別指導計画表の作成ができなかった。

そこで、三年次（令和2年度）は、国語科・算数科については、昨年度作成した単元別指導計画表を活用した研究授業、授業研究会を複数回実施することで、単元別指導計画表の有用性を検証することにした。また、新たに体育の単元別指導計画表の作成を行い、単元別指導計画表の作成を通して、授業改善につなげるとともに、学習指導要領の改訂に基づいた体育の系統的な年間指導計画の再編成に取り組むことにした。また、単元別指導計画表の作成や活用を通じた取組の有用性を検証するため、授業づくりに対する教員の意識がどのように変容したか、4月と12月に、全職員に対してアンケートを実施し、評価することにした。

以上のことを、国語科・算数科グループと体育科グループに分かれて研究を進めていく。

〈研究の方向性〉

国語科・算数科では、昨年度作成した単元別指導計画表を活用することで、育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた授業計画、授業実践・評価を行う。また、研究授業および授業研究会を通して、単元別指導計画表に示された目標や学習内容等の妥当性を検証することで、授業改善や次年度の年間指導計画の見直しにつなげることができるようにする。

体育科では、学習指導要領に示された運動領域ごとに目標、指導内容、評価規準等を整理し、体育の単元別指導計画表を作成することで、「育成を目指す資質・能力」の三つの柱を踏まえた目標や各段階に応じた学習内容を明確にする。また、作成した単元別指導計画表を来年度の年間指導計画に反映させることで、各段階の系統性が整理され、指導に生かされるようにする。

2 研究の経過

（令和2年度）

	国語科・算数科グループ	体育科グループ
4月	・昨年度の研究内容と今年度の計画についての確認	・昨年度までの研究の取組の流れの説明と今年度の研究の取組の提案
5月	・単元別指導計画表の活用について、疑問点や課題の抽出、検討	・運動領域別の目標と内容の整理、確認と段階別の振り分け
6月		・内容のまとめりごとの評価規準の作成

7月	・ 単元別指導計画表を活用した授業（国語科）実践	・ 体育科における見方、考え方の整理
8月	・ 単元別指導計画表の様式についての再検討、整理	・ 体育科の単元別指導計画表の入力作業
9月	・ 単元別指導計画表を活用した授業実践	・ 昨年度の体育科の年間指導計画の課題の洗い出し
10月	（国語科2事例、算数科3事例） ・ 単元別指導計画表の新様式についての確認	・ 昨年度の体育科の年間指導計画の「朝の運動」における段階や内容の整理、課題の洗い出し
11月		・ 次年度の体育の年間指導計画の単元の配列の検討
12月	・ 次年度の国語科の年間指導計画の見直し	・ 次年度の体育の年間指導計画の単元の時数の検討

3 研究の実際

（1）国語科・算数科グループの取組

①単元別指導計画表を活用した授業実践（資料①②参照）

昨年度、作成した単元別指導計画表を活用して、国語科・算数科で以下の研究授業、授業研究会を行った。対象としたのは、国語科では、1年「げきをしよう（ほっとけーき☆）」、2年「おはなしをよもう（はらぺこあおむし）」、4年「はなしてみよう（おはなしできるかな☆☆）」、5年「はなしてみよう（たのしかったえんそく☆☆☆）」の4つの単元、算数科では、2年「かずとすうじ」（数と計算）、3年「いろいろなおおきさ」（測定）、5年「グラフ」（データの活用）の三つの単元である。

（☆：文部科学省著作教科書）

研究授業前の研究会では、単元別指導計画表を基に、育成すべき資質能力の三つの柱を踏まえた単元目標の妥当性や、目標と学習内容のつながり、手立て等の検討をした。事前にこれらのことを複数的人数で検討し、「自分だったらどのような授業構成を行うか」などの様々な意見を出し合うことで、授業者は、単元目標を達成するために必要な学習内容の精選や手立ての工夫等を行うことができた。さらに、これらを授業に反映させることで、学習内容に広がりや深まりをもたせることができた。また、教科における「見方・考え方」については、まだ解釈が不十分な部分があるが、様々な資料を参考にしながら全員で検討を行った。

授業研究会では、単元別指導計画表を使った指導について振り返ったり、単元別指導計画表の活用について検討したりした。指導の振り返りについては、参考になる学習内容や手立て、教材等を全員で共有したり、さらにより良い指導を目指して、学習内容や手立て等について改善点を出し合ったりして、次の指導に生かすようにした。また、単元別指導計画表の活用について検討する中で、単元目標をこれまで以上に意識した授業の計画を立てられるようになったこと、何をどのように教えれば良いかが明確になったこと、手立て等を考える際の参考になったことなど、単元

別指導計画表の有用性を実感するような意見が挙がるようになった。

一方で、単元別指導計画表には、対象となる段階の目標のみを記載していたため、複数の段階の児童が混在する中での集団指導が難しいことや、児童の実態に応じて段階の目標を変える際に、学習指導要領を何度も見直さなければならないといった課題が挙がった。そこで、単元別指導計画表の様式の記入の仕方について見直しを行い、小学部の3段階全ての目標を並列して表記するようにした。それぞれの段階に応じた学習内容の設定方法にはまだ課題があるものの、複数の実態の児童がいる中での集団学習において、各段階の目標を並列して表記することで個に応じた目標設定がしやすくなった。また、何をいつ学習するのかを明確にした方がいいのではないかという意見も出たため、単元別指導計画表の学習内容の欄に日にちを明記するように変更した。

最後に、昨年度作成した単元別指導計画表はあくまでもスタンダードであり、これらを参考にしながら、単元目標は変わらないが、それぞれの児童の実態に応じて手立てを講じていき、授業改善につなげていくことが大切であることを確認した。

②年間指導計画の見直し

あたご小学部の年間指導計画は、国語科は、文部科学省著作教科書「こくご☆」「こくご☆☆」「こくご☆☆☆」の題材を主に扱った単元と一般図書を主題材とした単元、算数科は「さんすう☆」「さんすう☆☆」「さんすう☆☆☆」の題材を主に取り扱った単元で構成されている。

本研究を通して、算数科では、単元や題材について検討すべき事項は特に挙がらなかったため、来年度も今年度同様の計画で実施することを確認した。しかし、国語科については、2年生の一般図書（はらぺこあおむし）を主題材とした単元「おはなしをよもう」の授業研究会の際に、課題として、一般図書には学習指導要領の目標や内容を反映させた指導書がなく、学習目標及び内容の設定が難しいこと、その図書を選定した理由が明確でないこと、☆本と比べて文字数が非常に多いこと等が課題として挙げられた。また、1年生の「こくご☆（ほっとけーき）」を主題材とした単元「げきをしよう」では、ホットケーキ作りを劇化するまでには至らず、単元の目標と題材の目標及び内容にずれがあることが課題として挙がった。

これらのことから、年間指導計画を実際の指導と照らし合わせながら、各グループ（1年、2年、中学年、高学年グループ）で検討した結果、国語科の年間指導計画の見直しを行うことになった。最終的には、全職員が集まる研究会で、まず、4、5人程度の小グループで検討した後、全員で意見のすり合わせを行った。検討したことは次の二つについてである。

一つ目は、単元で扱う題材について、☆本に載っている題材を全て扱うか、いくつかの題材を抜粋して扱うかということを検討した。特に「こくご☆☆☆」には多くの題材があり、実際に全ての題材を扱うと大変さはあるかもしれないが、学習指導要領の内容を網羅するためには、☆本に載っている題材を全て扱う方が良いという意見が多数出された。そのため、時数等も見直し、来年度は、☆本の題材を全て載せた年間指導計画にすることを共通理解した。

二つ目の検討事項は、単元名についてである。昨年度の研究で、小学部6年間で学習に系統性をもたせること等を理由に、三つの単元名（「おはなしをよもう」「げきをしよう」「はなしてみよう」）に題材を振り分けたが、単元名と題材の不一致がいくつかあることが分かった。このことについても同様の方法で検討を行った結果、それぞれの題材、学習内容に合った単元名の方が分かりやすいという意見が多く出されたため、単元名についても変更することとした。

（2）体育科グループの取組

①体育科の単元別指導計画の作成

学習指導要領の体育の六つの運動領域別に、各学年から1、2名ずつ集まり、縦割りのグループを編成した。各グループ3、4名で、運動領域別の目標と内容の整理と共通理解を行い、小学部1段階から3段階の目標と内容の共通理解を行った。また、文部科学省から出された小学部体育科における「内容のまとめりごとの評価規準の作成の手順」で各運動領域の評価規準が示されたため、読み合わせを行って確認し、単元別指導計画表に載せることとした。見方・考え方については、分かりにくいという声が多く聞かれたため、運動領域グループで協議し、運動領域の価値や特性に着目した表記に統一することにした。今までの年間指導計画では単元として取り扱っていなかった「表現遊び」「表現運動」の運動領域も取り扱い、単元別指導計画表を作成した。

②体育科の年間指導計画の再編成（資料③参照）

次に年間指導計画に反映させるために、低、中、高学年担任のグループに編成し直し、作成した単元別指導計画表を基に単元の配列や時数等の配列を行った。単元別指導計画表を作成して、改めて現行の年間指導計画と比較すると、学習指導要領に示された学習内容の内容と、現行の教育課程に記された学習内容で段階のずれがあることが分かった。特に1段階で2段階の内容を先取りしていたケースが見られた。また、「なわ遊び」など、単元化した経緯が分からないものも見受けられた。他にも単元別指導計画表の作成をしていく中で、年間を通して行っている朝の運動（持続走、リトミック、のびのび運動）に関して、各段階の目標や内容に合っていないという意見が多く出され、見直しを行い、朝の運動の指導内容を整理し、各段階のねらいや内容を共通理解した上で、単元別指導計画表を基に年間指導計画を再編成した。「保健」分野については、単元化せず、各教科等を合わせた指導の中で取り扱うこととした。

（3）単元別指導計画表の作成と活用に関する教員の意識調査アンケートの実施

単元別指導計画表の作成及び活用を通して、教員の意識がどのように変容したか、4月と12月に、全職員に対してアンケートを実施した。以下のような4段階で評価をした。

4	3	2	1
あてはまる	ややあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない

国語科・算数科グループと体育科グループのそれぞれのアンケート結果は次のとおりである。

【国語科・算数科グループ】

1 国語科・算数科の指導について

項目	平均値		変化
	研究前	研究後	
1 学習指導要領の目標や内容を理解して、日々の指導に取り組んでいる。	3.0	3.4	↑0.4
2 目標に沿った評価をしている。	2.7	2.8	↑0.1
3 見方・考え方を理解している。	1.9	2.6	↑0.7
4 授業の反省を次の指導に生かしている。	3.1	3.4	↑0.3
5 単元別指導計画表を作成することができる。	2.3	3.4	↑1.1
6 単元別指導計画表を活用して授業実践や授業改善を行うことができる。	2.3	3.0	↑0.7

2 体育科の指導について

1 学習指導要領の目標や内容を理解して、日々の指導に取り組んでいる。	2.4	2.6	↑0.2
2 目標に沿った評価をしている。	2.6	2.8	↑0.2
3 見方・考え方を理解している。	2.0	2.2	↑0.2
4 授業の反省を次の指導に生かしている。	2.9	3.2	↑0.3
5 単元別指導計画表を作成することができる。	2.1	2.4	↑0.3
6 単元別指導計画表を活用して授業実践や授業改善を行うことができる。	2.0	2.4	↑0.4

3 単元別指導計画表の活用について

1 授業実践や授業改善に有効なツールだと思う。	2.9	3.2	↑0.3
2 教員間の共通理解を行うために有効なツールだと思う。	3.3	3.2	↓0.1
3 より良い年間指導計画の改善につながるツールだと思う。	2.9	2.8	↓0.1

〈考察〉

研究後の調査結果の方が、ほとんどの項目において評価が高くなった。特に、「1 国語科・算数科の指導について」の項目5では1ポイント以上高くなっており、多くの教員が単元別指導計画表の作成の方法が分かり活用できるようになってきたことがうかがえる。しかし、「3 単元別指導計画表の活用について」は、項目2と3のポイントが下がっていることから、今後、単元別指導計画表を活用した授業実践を多く積み重ねながら、単元別指導計画表を教員間の共通理解や年間指導計画の改善のツールとして使っていくための方法を検討する必要があると考える。

【体育科グループ】

1 国語科・算数科の指導について

項目	平均値		変化
	研究前	研究後	
1 学習指導要領の目標や内容を理解して、日々の指導に取り組んでいる。	2.6	2.8	↑0.2
2 目標に沿った評価をしている。	2.8	2.9	↑0.1
3 見方・考え方を理解している。	2.2	2.2	—
4 授業の反省を次の指導に生かしている。	3.3	3.2	↓0.1
5 単元別指導計画表を作成することができる。	2.5	2.5	—
6 単元別指導計画表を活用して授業実践や授業改善を行うことができる。	2.6	2.6	—

2 体育科の指導について

1 学習指導要領の目標や内容を理解して、日々の指導に取り組んでいる。	2.4	2.9	↑0.5
2 目標に沿った評価をしている。	2.8	2.9	↑0.1
3 見方・考え方を理解している。	2.2	2.2	—
4 授業の反省を次の指導に生かしている。	3.3	3.2	↓0.1
5 単元別指導計画表を作成することができる。	2.4	2.9	↑0.5
6 単元別指導計画表を活用して授業実践や授業改善を行うことができる。	2.5	2.8	↑0.3

3 単元別指導計画表の活用について

1 授業実践や授業改善に有効なツールだと思う。	3.1	2.9	↓0.2
2 教員間の共通理解を行うために有効なツールだと思う。	3.1	2.9	↓0.2
3 より良い年間指導計画の改善につながるツールだと思う。	3.2	2.8	↓0.4

〈考察〉

体育科の単元別指導計画作成グループでは、「2 体育科の指導について」の項目で、おおむね評価は同等、もしくは上昇している。「見方、考え方を理解している」に関しては、研究の取組前後で低い値を示しており、「見方・考え方」の捉えにくさを感じていることが分かる。今回、運動特性に焦点を当てた「見方・考え方」を記述することに取り組んだので、次年度単元別指導計画表を活用しながら、理解を深めていきたい。また、次年度運用をすることで授業実践、授業改善、教員間の共通理解を図るためのツールとして活用したいと考える。

4 まとめと今後の課題

国語科・算数科においては、単元別指導計画表を活用した授業実践に取り組み、様々な課題を出すことができた。そしてそのことについて一つずつ課題を解決し、より良い単元別指導計画表を作り直すことができた。また、単元別指導計画表を活用することで、単元目標に沿った授業づくりをより意識するようになったり、授業の反省を次の指導に生かしたり、経験の少ない教師も何をどのように指導するべきか参考にしたりと、教師が授業の改善に努めるようになってきている。さらに、国語科においては、年間指導計画を見直すこともできた。

体育科においては、六つの運動領域については、全単元の単元別指導計画表を作成し、それを基に体育の年間指導計画表の再編成を行った。その中で、特に「表現遊び」「表現運動」領域の追加、これまで行ってきた「朝の運動」の改編につながった。作成した単元別指導計画表については、今年度も一部試行的に活用するグループもあり、次年度以降は本格的に活用し、課題解決を図っていきたいと考える。

これまでの研究の中で見えてきた今後の課題としては以下のことが挙げられる。一つ目は、「見方・考え方」について理解を深めることである。研究授業前の研究会では、グループ全員で長崎県教育センターから出されている資料等を参考にしながら、「見方・考え方」について検討を重ねてきたが、まだ理解が不十分であると考えられる。そのため、今後、様々な研修会等を通して理解を深めていく必要がある。二つ目は、単元別指導計画表の様式についてである。研究を通してより活用しやすい様式に見直したため、他部門・他学部の様式とはだいぶ違いがある。学校全体を通して、単元別指導計画の様式をどの程度合わせていくべきか、今後検討が必要である。三つ目は、単元別指導計画表の活用についてである。アンケート結果から、多くの項目で良い結果が出ているが、単元別指導計画表が教員間の共通理解を行うための有効なツールとなることや、より良い年間指導計画の改善につながるといった点に伸びが見られなかった。その要因として、今年度の研究では、単元別指導計画表を授業計画や授業実践で主に活用したため、授業反省や授業改善に十分生かせなかったことが考えられる。来年度以降、単元別指導計画表を本格的に活用し、多くの単元別指導計画表を蓄積していくことで、授業づくりの参考資料として、また、授業改善のためのツールとして役立て、より良い年間指導計画の編成につなげていきたい。

参考資料

- ・文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」

平成30年3月

- ・長崎県教育センター 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善 No. 3
～見方・考え方を働かせるために～」

平成31年4月

国語科指導計画表 4年 単元名【はなしてみよう】 指導時期 6～7月

単元計画 全(4)時間	題材名「おはなしのできるかな」		小学部段階で育てたい力 ・ 日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝える(②イ)	指導時期 6～7月
単元目標	1段階	2段階	3段階	
	知・技	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じるができる。	身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表していることを感じる。	身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には、物事の内容を表す働きがあることに気づくことができる。
	思・判・表	身近な人関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。	体験したことなどについて、伝えたいことを考えることができる。	身近で関心したり、経験したりしたことについて、書きたいことを見つけ、その題材に必要な事柄を集めることができる。
学・人	言葉で表すことやそのよさを感ずるとともに、言葉を使おうとすることができる。	言葉がもつよさを感ずるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。	言葉がもつよさを感ずるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。	
見方・考え方	身近な物や人、対象と言葉の関係を言葉の意味と働き、使い方等に注目して捉え、様子を思い浮かべたり、自分の経験と結び付けたりして表現する。			
題材	学習内容		手立て、指導上の留意点等	教材
	・ 日常生活の場面、状況の話を聞いたり、自分の経験を話したりする。 ・ 時系列に沿って展開する話を聞き、場面を思い浮かべたり、自分の言葉で話したりする。		・ 表出が難しい場合は、選択ができるような絵カードや写真などを準備しておく。 ・ 絵カードを時系列に並べたり、自分で続きを考えたりする。思い浮かばない場合には、話ができるように具体的な場面の絵カードから選択させる。 ・ 町や遊びの場面の写真、絵カードを準備し、何があるのかや、どのようなものなのかなど実態に 応じてやりとりをする。	「こくご☆」 「おはなしのできるかな」12-19 P ・ イラストカード(日常生活の場面)
	6月23日	・ 町にあるものや動作の言葉に慣れる。(おでかけ)		
	6月26日	・ 町にあるものや動作の言葉に慣れる。(レストラン)		
	7月1日	・ 買い物でのやりとりの言葉に慣れる。(買い物)		
7月15日	・ 遊びで使うもの名前や動作の言葉、伝える言葉で友達や教師とやりとりする。(あそび)			
単元評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表していることを感じるができる。	体験したことなどについて、伝えたいことを考えることができる。伝えたことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。	言葉がもつよさを感ずるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。	
項目		評価(◎○△)	内容	
指導時数、指導時期、育てたい力	○		児童の実態(やり取りや語彙力等)を十分に把握してからの方が取り組みやすいと考える。そのため、指導時期は9・10月実施ぐらいが望ましい。	
目標、評価	◎		概ね適切であった。同じ段階の中でも、実態に応じて目標や評価を設定することで、実態に応じた指導を行うことができた。	
学習内容、手立て	○		児童から積極的に意見が出たので良かった。板書したものを、教師が読んで聞かせ、児童に言わせることも必要だった。	
教材、場の設定	○		教師と児童のやりとりが多く、児童同士で意見を共有し合うことが難しかった。児童同士が話し合う場を設定し、自分以外がどんなことを考えているのかを知る機会を設けることも必要であった。	

【変更前】

○○科指導計画表 ○年		単元名	指導時期	
単元計画 全()時間		(題材名)「 」	(題材名)「 」	
小学 部段階で育てたい力		◎		
単元目標	(知・技)			
	(思・判・表)			
	(学・人)			
見方・考え方				
題材①	【学習内容】	【手立て、指導上の意図・留意点等】	【教材】	
単元評価	A (知識・技能)	B (思考・判断・表現)	C (主体的に学習に取り組む態度)	
反省	項目	評価 (◎○△)	内容	
	指導時数、指導時期			
	目標、評価、学習内容、手立て			
	教材、場の設定			
	育てたい力			

【変更後】

○○科指導計画表 ○年		単元名 【 】	指導時期 ○月
単元計画 全()時間		題材名「 」	小学部段階で育てたい力 () ()
単元目標	知・技	1段階	2段階
	思・判・表		
	学・人		
見方・考え方			
題材	学習内容	手立て、指導上の留意点等	教材
	○月○日		
	○月○日		
	○月○日		
単元評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
反省	項目	評価 (◎○△)	内容
	指導時数、指導時期、育てたい力		
	目標、評価		
	学習内容、手立て		
	教材、場の設定		

すべての段階について目標が書いてあるため、対象となる段階が分かるように枠線を太くする。

